

## 医療安全全国共同行動 第1回全国フォーラム 挨拶

岡本浩二(厚生労働省大臣官房参事官)、山本修三(日本病院団体協議会議長)、  
羽生田俊(日本医師会常任理事)、永池京子(日本看護協会常任理事)、  
本間崇(日本臨床工学技士会常務理事)

2008年11月24日(月・祝)

### 【永池京子 日本看護協会常任理事】

おはようございます。呼びかけ団体の一つといたしまして、日本看護協会、医療安全を担当しております永池よりご挨拶申し上げます。本日はこの第1回全国フォーラムにご参集いただきまして、心より感謝申し上げます。この全国共同行動は、医療を支える病院で働くみなさま方、それから、関係の学会、団体、行政、および、地域社会のみなさま方とともに推進していく、医療安全において大変意義のあるものと思っております。

日本看護協会も、医療の現場で多数を占める看護職が医療安全に対し適切な知識と技術を持つことによって、組織全体で医療安全の確保が取り組まれるということを期待し、少し前から、—もうずいぶん前からと申し上げた方がよろしいでしょうか— 国民の中で医療安全の重要性というものが認識され始めた頃より、医療安全管理者の養成に取り組んでおります。これは現在も続いておりますが、加えて、この医療安全全国共同行動にも大変関心を寄せ、日本看護協会といたしましても強く推進していかなばならぬ、と考えております。5月のキックオフ・フォーラム以後、本会といたしましては、7月に拡大医療安全推進会議を開催いたしまして、47都道府県の看護協会が医療安全を担当しているみなさまにお集まりいただき、まず、この“いのちをまもるパートナーズ”の取り組みの概要を説明いたしました。参加者の多くの方より「私の病院でもやろうかしら、そのためにはどういう取り組みをしたら一番いいのだろうか」と、こんな協議が1日かけてなされ、その後、それぞれ意見交換をしましたハウツーやノウハウ、こういったところを地元に戻り、現在、展開しているところでございます。

先日、その一つである愛知県看護協会による医療安全管理者の交流会に参加して参りました。聞くところによりますと、まだまだ、参加の意志決定を病院としてしたというところは少のうございました。これが現実でございます。

しかしながら、取り組むという強い意志をお持ちの方々が、「私たちはこういうふうにやりました。次、みなさんがこういうふうにやったらもっともっと展開していくのではないか」と話されているのを聞き、現場におりまして、私は大変心強く思いました。

このたびのパートナーズへの参加は自主的参加ということになっておりますが、自主的参加をするに至っても、多くの情報を提供しなければいけないと思っております。まずは、本日、ここにお越しのみなさま方にもこういった取り組みのことを話し、病院全体で取り組み、その病院全体の取り組みが地域社会、そして、国民のみなさまにもおわかりいただけるよう、がんばってまいりたいと思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。そして、最終日を迎える際には私どもが達成目標として掲げている数値が、きちんと達成され、喜べる日を迎えたいと考えております。

参考ではございますが、日本看護協会でのこのようなポスター(図1)をつくりまして、いろいろなところで掲示をさせていただいております。医療安全推進週間に関しましては、少しかわいめのものでございますが、このようなもの(図2)を本会の原宿の会館の中にも提示させていただいております。一人一人の活動が大きな力となって、最終的に目に見えるような形になることを願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

医療安全全国共同行動 第1回全国フォーラム 挨拶

岡本浩二(厚生労働省大臣官房参事官)、山本修三(日本病院団体協議会議長)、  
羽生田俊(日本医師会常任理事)、永池京子(日本看護協会常任理事)、  
本間崇(日本臨床工学技士会常務理事)

2008年11月24日(月・祝)

図1



※上記ポスターは、日本看護協会ホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/kyodo.html>

図2

